大阪府立大学学長 辰巳砂 昌弘 様

大阪府立大学2020年度学生要望書

および

学生アンケート結果報告書

大阪府立大学 中百舌鳥・りんくうキャンパス学生自治会 中央執行委員会委員長 加藤 鉄馬

要望書

新型コロナウイルス感染拡大に対し世界的に収束のめどが立っていない昨今、大阪府においても、同府よるモニタリング指標「大阪モデル」では非常事態に相当する赤色の信号が点灯され、国からは二度目の緊急事態宣言が発令されており、ひっ迫した状況が続いています。こうした状況のさなか、大阪府立大学においては教職員をはじめとした関係者や学生一人ひとりの弛まぬ意識のもと、辛くも大規模な感染拡大は未然に防がれているものと思われます。オンラインでの遠隔授業についても、前期授業での形式の模索の甲斐あり、いくばくかクオリティの向上が認められます。しかしながら、感染拡大防止を目的としたものとして避けられないこととはいえ、学生に対する大学施設利用の制限や金銭的な窮状に苦しむ学生の存在など、看過できない問題は依然として残っています。加えて、このような危急的状況下にもかかわらず、今年度後期試験に際しては対面での試験を禁止することのなかった大学当局の判断に多くの学生の疑問が寄せられています。

学生自治会としては、継続的かつ不安定な忍耐を一方的に要求される学生の負担を少しでも軽減すべく、大学当局においては「2020年度要望書アンケート」(以下、学生アンケート)の結果を集約して得られた下記の各要望に鑑み、真摯かつ迅速に対応されることを切に要望するところであります。

【要望内容】

- ① 大学における情報通信設備に関して、次の内容を実施すること。
 - I. 学内における Wi-Fi 利用環境を充実化させること。具体的な条件として各キャンパス内全域におけるスマートフォンでの Wi-Fi の日常的利用を可能にすること。
 - II. 全学生のコンピュータ必携化に向けたものとして、現在故障などに対し行われている動産補償サービスに加えて、コンピュータ購入等に際する経済的補償などを実施すること。
- ② 大学による各種経済支援に関して、次の内容を実施すること。
 - I. 経済支援制度の応募資格要件を緩和すること。具体的な条件として家計基準 の収入条件をそれぞれ 100 万円ずつ引き上げること。
 - II. 新型コロナウイルス感染症拡大に係る経済支援を定期的に実施すること。
- ③ 学生の支払う授業料に関して、次の内容を実施すること。
 - I. 例年の大学の総収入に対し、学生の授業料が占める割合を算出したうえで、 今年度と前年度との大学の総支出の内訳を調査し、その違いを比較すること。
 - II. I.の結果を踏まえて、今年度において学生より支払われた授業料の使途が妥当である旨の説明を、学生に対し公表する形で行うこと。
- ④ 実験・実習以外の授業に関して、次の内容を実施すること。
 - I. 対面形式とオンライン形式のどちらで受講するかを学生各自で決められるように、各授業とも両形式での実施を原則とし、どちらの形式においても学習機会の格差を極力生じさせないよう手配すること。
 - II. 各キャンパス内において、同期型オンライン授業に際する発言等の許される 専用スペースを確保すること。
- ⑤ 入退館管理システムに関して、学生証などを活用した円滑に扱えるシステムを考案 し、大学内各施設にて実装・運用すること。

【詳説】

① 後期授業の初め、対面授業とオンライン授業の両方の形式のものを受講する学生は数多く存在しました。その中でも、スケジュールの都合上キャンパス内でのオンライン授業の受講を必要とする学生にとって、安定したデータ通信は必要不可欠なものでありましたが、学生アンケートによると、現状として大学キャンパス内のWi-Fi 設備は盤石なものとは言い難いものと考えられます。オンライン授業での利用に限らず、キャンパス間でシステム上の格差が発生することのないよう、きたる大学統合に向けてもスマートフォン等での日常的利用に適した程度の無線 LAN 環境が、各キャンパス全域に等しく必要とされるものと考えられます。

また、同じく大学統合に向けて、全学生に対するコンピュータの必携化も重要なものと考えられます。現状として個人所有のコンピュータを持ち合わせていない状態での今年度オンライン授業を受講した学生も少なからず存在するものと考えられます。 各学生へのコンピュータ所有を促すためにも、現況の動産補償に加えた更なる支援が必要であります。

よって、学生が各種データ通信に際して負担なく感じられるように、また、すべての学生の手に自らのコンピュータを行き渡らせ、円滑な情報通信が担保された生活を 実現すべく、当局に対し上記の内容の実現を要望するところであります。

② 2020 年、国から給付された、「学びの継続」のための"学生支援緊急給付金"をはじめとして、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で修学の継続が困難になっている学生に対し複数の経済的支援が施されましたが、給付条件の厳しさや限られた給付回数に対し、経済的窮状に立たされている学生は多く存在します。加えてこうした状況は継続的であり、多くの学生は現在もなお苦しめられています。特に、大阪府に対し緊急事態宣言が発令されている現在、飲食店に対する営業自粛が要請されているため、生活収入を飲食店の経営、あるいは飲食店への勤務によって得ている家庭における学生は、収入源が不安定な状態での学生生活を余儀なくされています。また、新型コロナウイルス感染拡大に注意を向けながらの生活は、今後とも続いていくものと予想されます。

こうした現況に鑑みるに、継続的に経済的負担を強いられている学生に対し、従来よりも良心的な経済支援が必要であると考えられます。よって、いかなる学生においても充実した学生生活を享受できるようにすべく、上記の内容の実現を要望するところであります。

③ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は大学施設を利用することに対して多くの制限が課せられました。こうした対応自体は妥当な判断のもと行われていることは明らかであり、学生としても納得するところです。しかしながら、こうした制限のもとにありながら授業料として例年と変わりない出費を要求されることは、オンライン授業の実施のための設備維持費等が大学の負担によって賄われている、といったあいまいな説明ではいささか信用性に欠けるため、不当なものとして疑わざるを得ません。

したがって、学生の大学に対する授業料等の金銭的な不信感を払拭し、実りある学習に集中できるようにすべく、当局に対し上記の内容の実現を要望するところであります。

④ 今年度の学生アンケートにおける様々な意見の中でも、焦点として考えられる事柄はやはり授業形式に関するものでありました。各教員による工夫もあり、実際の授業形式はそれぞれ多少異なるものではありますが、これを大きく二分するならば「対面授業」と「オンライン授業」に分けられるものと思われます。これらの授業形式はそれぞれ異なる利点と課題点を孕んでおり、それぞれの形式のもとで行われる授業に対して、いずれの形式においても一部の学生や教員から課題点の指摘がなされております。この度の学生アンケートにおいても、対面授業を望む学生とオンライン授業を望む学生との二極化が見られます。傾向として、キャンパス近辺に下宿している学生などは家賃等を支払っている以上例年通りの対面授業を望み、キャンパスから距離のある地域に居住する学生などは登学の際の感染リスク等を懸念しオンライン授業を望むものと推測されます。もっとも、どちらの立場の意見も妥当なものであり、決してどちらかが正しくどちらかが間違っているといったものではありません。当然、そのどちらも尊重されるべきものであります。

授業ごとに形式が定まっている現状では、先に挙げた二通りの意見の内、片方のみを聞き入れることとなり、結果として学生の不満は募るばかりであります。こうした不満を解消するためには、各学生に授業形式を選択する余地を与えることが有効であると考えられます。よって、学生の安全確保と学習機会の担保を両立させ、満足のいく生活につなげるべく、当局に対し上記の内容の実現を要望するところであります。

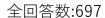
5 この度の学生アンケートにて、現在の大学の行う感染症対策に対する不満な点として、入退館管理システムの不便さが挙げられました。大学内各施設の出入り口付近に据えられた QR コードをスマートフォン等で読み込み、サイト上にて入室か退室かを選択し、回答を送信する、といった一連の操作を実施するにはかなりの時間を要する上に、施設を移動するたびに実施を要求されるために、面倒であるからか素通りして入退館する学生が少なくありません。各学生がいつ、どこにいたのかという情報は感染拡大防止に有効であることは明らかでありますが、これを把握するためのシステムがろくに利用されてないのであれば、元も子もありません。

また、入退館管理システムの不便さを指摘した学生は、学生証内蔵の IC チップを活用することによって、先述の問題点が解消されるのでは、ということも述べており、この提案は一考に値するものと考えられます。よって、入退館管理システムの利用率を向上させ、ウイルス感染拡大防止をより確かなものとすべく、当局に対し上記の内容の実現を要望するところであります。

学生アンケートの全回答数分布報告

1) 学年ごとの回答

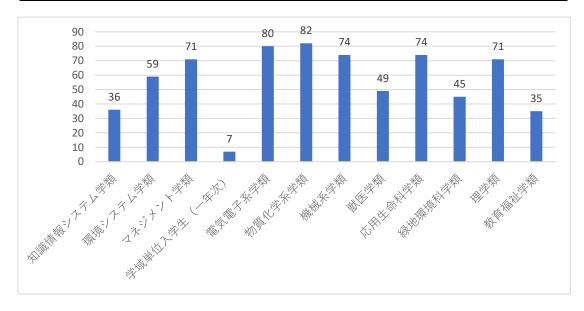
年次	回答数
一年次	250
二年次	213
三年次	153
四年次	77
五年次	2
六年次	2





2) 学類ごとの回答

学類	回答数	学類	回答数
知識情報システム学類	36	機械系学類	74
環境システム学類	59	獣医学類	49
マネジメント学類	71	応用生命科学類	74
学域単位入学生 (一年次)	7	緑地環境科学類	45
電気電子系学類	80	理学類	71
物質化学系学類	82	教育福祉学類	35

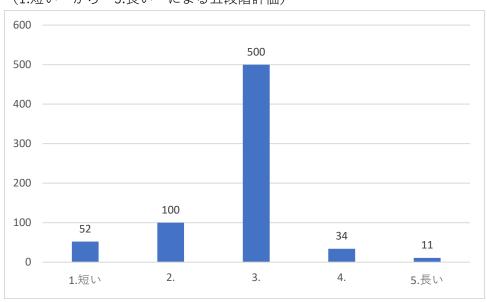


学生アンケート結果報告

○後期授業に関して

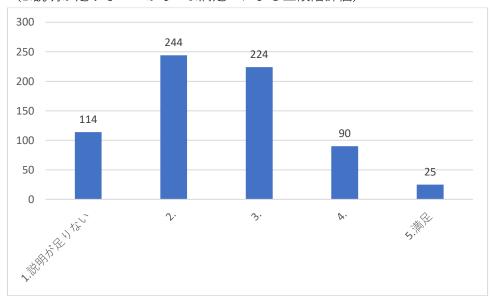
Q1. 授業申請期間は十分でしたか?

(1.短い から 5.長い による五段階評価)



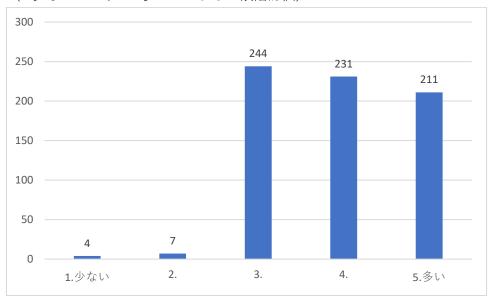
Q2. 授業内容はいかがでしたか?

(1.説明が足りない から 5.満足 による五段階評価)



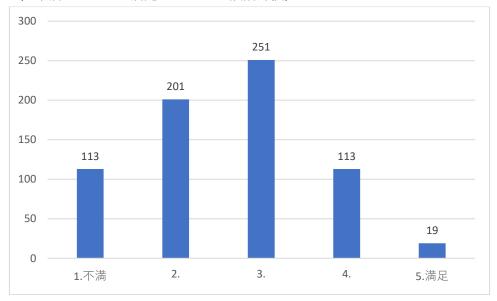
Q3. 課題の量は十分でしたか?

(1.少ない から 5.多い による五段階評価)



Q4. 総合的に後期授業の評価はいかがですか?

(1.不満 から 5.満足 による五段階評価)



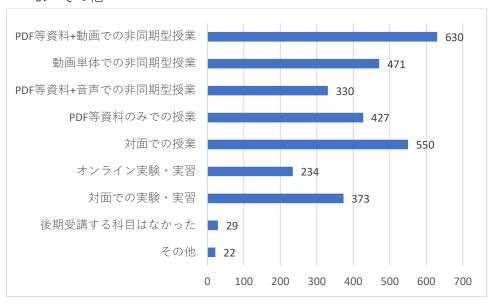
- Q5. 後期全体で授業資料や課題のための印刷はいくらかかりましたか?

 - 1. 0円(印刷していない) 2. 0円より多く5000円以下
 - 3. 5000 円より多く 10000 円以下 4. 10000 円より多く 20000 円以下
 - 5. 20000円より多い



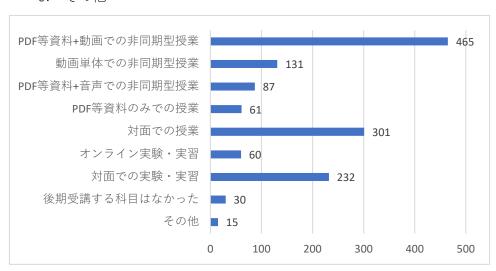
- Q6. 後期受講した形式をすべて教えてください。
 - 1. PDF 等資料+動画での非同期型授業 2. 動画単体での非同期型授業
 - 3. PDF 等資料+音声での非同期型授業 4. PDF 等資料のみでの授業
 - 5. 対面での授業
 - 7. 対面での実験・実習
 - 9. その他

- 6. オンライン実験・実習
- 8. 後期受講する科目はなかった



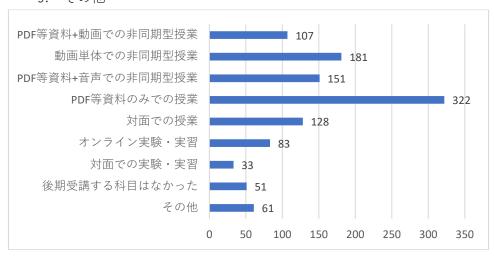
- Q7. 後期受講してよかった形式をすべて教えてください。
 - 1. PDF 等資料 + 動画での非同期型授業 2. 動画単体での非同期型授業
 - 3. PDF 等資料+音声での非同期型授業 4. PDF 等資料のみでの授業
 - 5. 対面での授業
 - 7. 対面での実験・実習
 - 9. その他

- 6. オンライン実験・実習
- 8. 後期受講する科目はなかった



- 08. よかった形式の理由を教えてください。(参照)
- 09. 後期受講して不満のある形式をすべて教えてください。
 - 1. PDF 等資料+動画での非同期型授業 2. 動画単体での非同期型授業
 - 3. PDF 等資料+音声での非同期型授業 4. PDF 等資料のみでの授業
 - 5. 対面での授業
 - 7. 対面での実験・実習
 - 9. その他

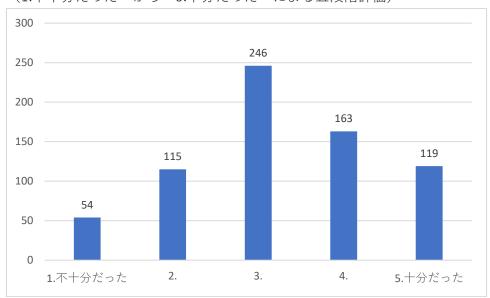
- 6. オンライン実験・実習
- 8. 後期受講する科目はなかった



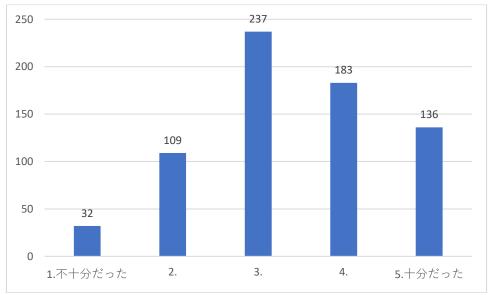
- Q10. 不満のある形式の理由を教えてください。(意見編を参照)
- Q11. その他後期授業・実験などでの感想や今後の改善点があれば 教えてください。(意見編を参照)

○大学の感染症対策について

Q12. 対面授業における感染症対策はされていると感じましたか? (1.不十分だった から 5.十分だった による五段階評価)



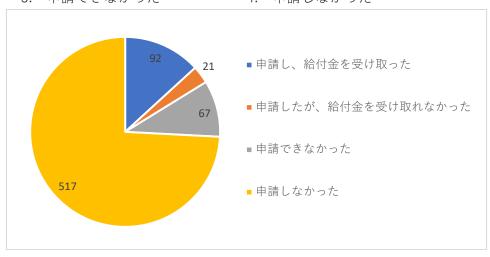
Q13. 大学施設における感染症対策はされていると感じましたか? (1.不+分だった から 5.+分だった による五段階評価)



- Q14. あなたが必要だと思う感染症対策があれば教えてください。(意見編を参照)
- Q15. その他大学の感染症対策に対する疑問・意見などがあれば 教えてください。(意見編を参照)

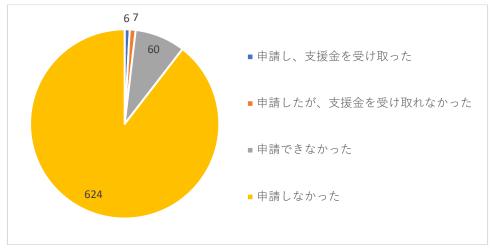
○奨学金に関して

- Q16. 文部科学省による、「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』を 申請しましたか?
 - 1. 申請し、給付金を受け取った 2. 申請したが、給付金を受け取れなかった
 - 3. 申請できなかった
- 4. 申請しなかった



- Q17. 大阪府立大学による、つばさ基金を財源とした『緊急支援金』を 申請しましたか?

 - 1. 申請し、給付金を受け取った 2. 申請したが、給付金を受け取れなかった
 - 3. 申請できなかった
- 4. 申請しなかった



Q18. その他、奨学金に関して大学に対する疑問・意見などがあれば 教えてください。(意見編を参照)

○その他

Q19. その他、大学当局に対する質問や意見、要望等があれば教えてください。 (意見編を参照)